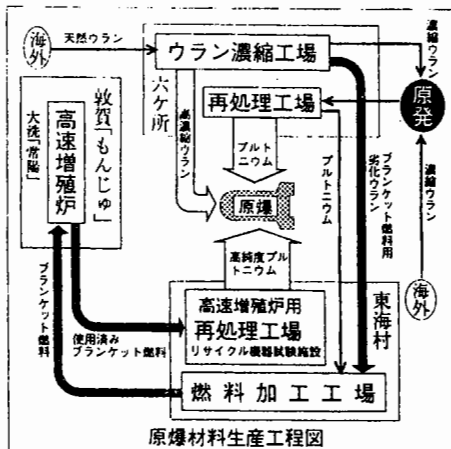




「もんじゅ」を狙った核武装



四月五日、福井県敦賀市にある高速増殖炉「もんじゅ」が臨界に達し、本格運転を開始しようとしている。

核先進国といわれるアメリカやフランスが運転自体極めて危険であることやコストがかかりすぎるなどの理由で、高速増殖炉の運転や計画を中止するなか、日本のみが高速増殖炉の本格運転に踏み切ろうとしていることは一体、政府はなにを考えているのか。九二年一月二九日、朝日新聞に「日本の外交力の裏付けとして、核武装の選択の可能性は捨ててしまわないほうがいい。保有能力は持つが、当面、政策として持たないという形でいく。そのためには、プルトニウムの蓄積と、ミサイルに転用できるロケット技術は開発しておかなければならない」との外務省高官の発言が掲載されている。

自民党・宮沢でさえ懸念を表明

高速増殖炉の運転によって炉内に高純度(九八%)のプルトニウムが蓄積され、原子爆弾の材料としてきわめて利用価値が高く、これを再処理すれば戦術核兵器に転用出来ると言われている。

また、新生党・小沢一郎の提唱する「機器管理の出来る普通の国家」への改造、「国際貢献に武力行使も辞さず」との主張や朝鮮をめぐるアメリカの戦争挑発を考え合わせると日本は核武装を目指しているとの容易に予測出来る。

自民党・宮沢でさえ「(将来を予測すると前置きし、)憲法を改正して日本が軍備を持つと、むしろ『自衛のため』という前提はつくでしょうが、やがていちはん経済的な軍備は核兵器を持つことである、という議論が必ず出てくる」(アエラ三月二一日号)と懸念を表明しているのである。

核武装へ向けたプルトニウムは出来上がっている

日本の核武装にむけた計画はすでに出来上がっている。図のとおり、天然ウランを輸入し、①青森県六ヶ所村のウラン濃縮工場で処理、②茨城県東海村の燃料加工工場でプルトニウム燃料に加工(ウラン二三八)、③福井県敦賀市「もんじゅ」を運転、④「もんじゅ」の炉内に蓄積されたプルトニウムを東海村の「高速増殖炉用再処理工場(リサイクル機器試験施設)」で処理すると「高純度プルトニウム」が出来上がる。この処理された「高純度プルトニウム」を核弾頭にし、種子島で打ち上げられたH2ロケットに搭載すれば大陸間弾道弾に転用出来るのである。人類がコントロール出来ない核な

「もんじゅ」は、福井県敦賀市に二万五千KWの発電所として本格運転されようとしている。現在全国各地にある軽水炉型の原子力発電所とは全く違ったタイプの高速増殖炉型の原発。政府・関西電力は、「もんじゅ」の本格的運転のために全くの極秘裡に臨界(原発の炉心に核燃料を入れ、制御棒を引き抜いていくと分裂反応が生じ、熱を発生するようになる。これは連鎖反応が起こり始めたため、このように核分裂が持続的に進み始める境目を臨界という。現代用語の基礎知識一九九一年版)を迎えようとしている。(臨界を迎えたのは四月五日である。)

また、高速増殖炉の冷却材としてナトリウムが使用されており、ナトリウムは水と激しく反応するため、二次災害も十分予想される。

「もんじゅ」は、長崎に落ちた原子爆弾の材料、自然界にはほとんど存在せず、一九四〇年、アメリカの実験室で人工的に作られた。プルトニウムの名前は、冥王星(プルト)と「地獄の主」に由来する。それはその名の由来どおり、人類を地獄の炎で焼き尽くすことによる歴史に登場した。プルトニウムは、ウランよりも小型・軽量の核弾頭を作ることが可能であり、現代核兵器はプルトニウムなしに考えることは出来ない。また、極微量で発毒性を示す

「もんじゅ」は一度生み出されたら自然に消えることはない(半減期二万四千年)。元素記号Pu。(北陸労組交流センター付録資料「とめよう!高速増殖炉「もんじゅ」」No.1より抜粋し、転載。)

「もんじゅ」は、長崎に落ちた原子爆弾の材料、自然界にはほとんど存在せず、一九四〇年、アメリカの実験室で人工的に作られた。プルトニウムの名前は、冥王星(プルト)と「地獄の主」に由来する。それはその名の由来どおり、人類を地獄の炎で焼き尽くすことによる歴史に登場した。プルトニウムは、ウランよりも小型・軽量の核弾頭を作ることが可能であり、現代核兵器はプルトニウムなしに考えることは出来ない。また、極微量で発毒性を示す

「もんじゅ」は一度生み出されたら自然に消えることはない(半減期二万四千年)。元素記号Pu。(北陸労組交流センター付録資料「とめよう!高速増殖炉「もんじゅ」」No.1より抜粋し、転載。)

「もんじゅ」は一度生み出されたら自然に消えることはない(半減期二万四千年)。元素記号Pu。(北陸労組交流センター付録資料「とめよう!高速増殖炉「もんじゅ」」No.1より抜粋し、転載。)

「もんじゅ」は一度生み出されたら自然に消えることはない(半減期二万四千年)。元素記号Pu。(北陸労組交流センター付録資料「とめよう!高速増殖炉「もんじゅ」」No.1より抜粋し、転載。)

「敦賀現地闘争に起つ」

原爆製造工場とも言える高速増殖炉「もんじゅ」・敦賀が初臨界に達し、本格運転を開始した。六千億円もの税金をかけて、欧米諸国ではすべて撤退している高速増殖炉をなぜ建設稼働を強行しているのか。多くの科学者は「高純度九八%のプルトニウムは原発の材料としてあり、即核兵器として使える」と警告している。

われわれは、日本の核武装化に直結する「もんじゅ」の停止・解体を決意し現地闘争に決起した。現地北陸労組交流センターは四・四から革マルの敵対を粉砕し連日の決起である。この闘いは核武装阻止、朝鮮侵略戦争反対の闘いを



写真右上が「もんじゅ」